

(2) 小学校体育科の実践と考察

ア 授業の概要

(ア) 期間 令和5年11月2日～11月27日

(イ) 対象 小学校 第5学年 (33名)

(ウ) 単元名 跳び箱運動

(エ) 単元の目標

- ・ 跳び箱運動の行い方を理解するとともに、自己の能力に適した切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができる。
- ・ 自己の能力に適した課題解決の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- ・ 跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。

(オ) 単元の評価規準

【知識・技能】

- ① 跳び箱運動の行い方について、言ったり、書いたりしている。

- ② 自分の力に合った技に取り組み、安定した動作で行うことができる。

【思考・判断・表現】

- ① 自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりしている。
- ② 課題解決のために自己や仲間の考えたことを伝えている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ① 跳び箱動に積極的に取り組もうとしている。
- ② 学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。
- ③ 器械・器具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。
- ④ 仲間の考えや取組を認めようとしている。
- ⑤ 互いの服装や髪形、場や器械・器具の安全に気を配っている。

(カ) 単元の指導計画

単元の指導計画について下の表10に示す。

表10 単元の指導計画

時間	学習過程					評価の重点		
	知	思	態					
1	(1) 本時のねらいの確認	(2) 学習方法などの確認	(3) ICTを使って課題を見付けるための練習	(4) 本時のまとめ				② (観察・カード)
2	(1) 場の準備 (2) 準備運動 (3) 主運動につながる運動 (4) 本時のねらいの確認	(5) 課題把握 (開脚跳び)	(6) 課題に合った場での練習	(7) 成果と課題の把握	本時のまとめ (学習カードの記入、振り返り)	片付け		① (観察・カード) ③ (観察)
3		(5) 課題把握 (かかえ込み跳び)	(6) 課題に合った場での練習	(7) 成果と課題の把握				① (観察・カード) ⑤ (観察)
4		(5) 課題に合った場での練習 (切り返し系の技)	(6) 成果と課題の把握					② (観察) ② (観察・カード)
5		(5) 発表する技の練習	(6) 切り返し系の技の発表					② (観察) ①④ (観察・カード)
6		(5) 課題把握 (台上前転)	(6) 課題に合った場での練習	(7) 成果と課題の把握				① (カード) ③ (観察)
7		(5) 課題把握 (伸膝台上前転)	(6) 課題に合った場での練習	(7) 成果と課題の把握				② (観察) ① (観察・カード)
8		(5) 課題に合った場での練習 (回転系の技)	(6) 成果と課題の把握					② (観察) ② (観察・カード)
9		(5) 発表する技の練習	(6) 回転系の技の発表					② (観察) ①④ (観察・カード)

イ 手立ての具体

(7) 手立て①

本單元では、手立て①について、児童の課題、学習到達度に応じた練習の場、練習時間を設定することとした。

詳細について以下に示す。

a 個々の課題、学習到達度に応じた練習の場

教師は児童の個々の課題、学習到達度に応じた練習の場を用意する。また、児童の体格や技能に合わせ、跳び箱の高さも選べるようにする。

b 個々の実態に合わせた練習時間

本単元の構成は、2～5時間目を繰り返し系の技、6～9時間目を回転系の技に取り組むこととする。繰り返し系と回転系の技は、安全上の配慮から同じ時間で取り組まない。そして単元を通して、個々の実態に合わせて児童が練習時間を意思決定できるようにする。

(1) 手立て②

本單元では、手立て②について、次時の練習の場、練習時間を選択しながら目標達成に向けて自ら学習を進めていくことができるように、学習到達度の振り返りを設定することとした。

振り返りでは、学習到達度と次時に向けた見通しを学習カードに記入する時間を設ける。なお、学習カードは Google スプレッドシートを使用し、他者と振り返りを共有する。それにより、班員から助言を受けたり、班員の学び方を取り入れたりすることができるようにする。

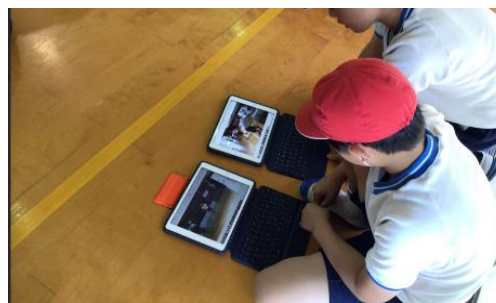
(2) 手立て③

本單元では手立て③について、児童の技能の習得状況の差を考え、それぞれの技能の習得状況において達成すべき課題と捉えた。

そこで、児童が自身の課題を見付けるために、まず課題を見つける際の4つの視点（踏切、着手、空中姿勢、着地）を児童に示す。次に、技に取り組む様子をペアで撮影させる。そして、互いに撮影した動画と見本動画を比較し、4つの視点から自己課題を見つける時間を設ける。

(資料1)

資料1 課題発見の様子



ウ 手立ての妥当性と課題の考察

(7) 手立て①

a 分析資料・分析方法

- ・ 録画記録による行動分析
- ・ 単元終了後の聞き取り

b 結果と考察

A児

かかえこみ跳びに取り組んだ第4時のA児の練習の様子を表11、単元終了後の聞き取りを資料17に示す。

表11 A児の練習の様子

	練習の場	回数	成功○ 失敗×	練習の様子
第4時	縦5段	1	×	膝が開く…①
	横5段	1	○	②
	縦5段	5	××× ○○	膝が開く
	縦5段	1	○	・最後まで膝を閉じたまま跳び越える…③

資料17 A児の単元終了後の聞き取り

- (質問) 技ができるようになるために効果があったと思う練習場所を教えてください。
- (回答) 縦の跳び箱でかかえ込み跳びができるようになるために、横の跳び箱でかかえ込み跳びの練習をしたのがよかったです。理由は、横の跳び箱で遠くまで跳ぶことを意識して練習して、その後に縦の跳び箱でもう一度跳んで、できるようになったからです。…④
- (質問) 繰り返し系と回転系でそれぞれ4時間ずつ技に取り組める時間があつたことはどうでしたか。
- (回答) とても効果がありました。1時間でできなかった技を次の時間も練習してできるようになったら、達成感があつたからです。…⑤

①にあるように、第4時、A児は縦5段の跳び箱でかかえ込み跳びをした際に、膝が開くことが課題であった。次に、その課題を解決するためにA児は横の跳び箱でかかえ込み跳びを練習していることが②から分かる。その後再度、縦の跳び箱で練習を行い、課題を解決することができたことが③から分かる。

単元終了後の聞き取りで、課題を解決できた経緯について、A児は④にあるように、「横の跳び箱で遠くまで跳ぶことを意識して、その後に縦の跳び箱でもう一度跳んでできるようになったから」と答えている。つまりA児は、自身の課題解決に向けて「遠くまで跳ぶ」という技能を身に付けるため一度難易度の低い横5段の場を選択したと言える。このことから、難易度の異なる場の中からA児が自身の課題に応じた場を選択して練習したことが、課題解決につながったのではないかと考える。また、練習時間について⑤にあるように、練習時間を4時間設定し、その配分を自分で調整しながら取り組めたことも課題が解決できた要因だと思われる。

以上のことからA児は自身の課題や学習到達度に合わせて、練習の場や練習時間を選択し、課題解決に近づいていたと考えられる。

B児

台上前転に取り組んだ第8時、第9時のB児の練習の様子を表12、単元終了後の聞き取りを資料18に示す。

表12 B児の練習の様子

	練習の場	回数	成功○ 失敗×	練習の様子
第8時	ステージからジャンプする場	3	○	
	ステージから前転で降りる場	7	3回目で成功	
	フロアからステージに前転する場	4	×	・回転ができない…①
	連結した跳び箱で前転する場	1	×	・斜めに落ちる
	マットを被せた縦2段の跳び箱	6	×	・斜めに落ちる…②
第9時	くぼみのある跳び箱	1	×	・腰が上がらない
	マットを重ねた場	3	○	③
	くぼみのある跳び箱	3	×○ ×	・2回目で成功…④
	マットを被せた縦3段の跳び箱	4	○○ ○×	・3回目は着地も成功
	くぼみのある跳び箱	1	○	
	マットを重ねた場	2	○○	
	マットを被せた縦3段の跳び箱	1	○	⑤

資料18 B児の単元終了後の聞き取り

- (質問) 技ができるようになるために効果があったと思う練習場所を教えてください。
- (回答) 台上前転ができるようになるために、ステージから前転して降りる場がよかったです。理由は、ステージから前転で降りるのは怖かったけど、セーフティマットだったので安心して繰り返し練習をしたことで、着地ができるようになったからです。…⑥
- (質問) 切り返し系と回転系でそれぞれ4時間ずつ技に取り組める時間があつたことはどうでしたか。
- (回答) できないまま終わるんじゃなくて、その時間の振り返りを次の時間につなげて、技ができるようになったからよかったです。…⑦
発表会が4時間目にあつたので、そこまでにできるようになりたいと思って練習しました。…⑧

B児は、レディネステストで台上前転に取り組むことができなかった。これは、台の上に上がることや台上で前転をすることへの恐怖心が原因であったと推察される。

表 13 C児の練習の様子

	練習の場	回数	成功○ 失敗×	練習の様子
第2時	縦3段	1	×	勢いが足りず、台に乗る…①
	縦4段	1	×	
	縦3段	1	×	
	縦3段 (柔らかい)	6	××× ×○○	踏切に勢いがつく…②
	縦5段	3	×××	
	両足踏切 両足着地	1	○	
	縦5段	4	すべて×	
	縦3段	2	××	台に乗る…③
第4時	縦3段	1	×	
	ロールマット	1		④
	縦3段	1	○	⑤
	ロールマット	1		
	縦4段	4	すべて×	
	縦3段	2	○○	
	縦4段	1 1	1～7回目× 8～11回目○	⑥

第8時の①にあるように、B児は台上で前転を行う際に顎を引きながら後頭部を台上に着けることができず、前転ができない状況が見られた。

第9時では、③にあるように前時の課題を解決するために高さのあるマットでの前転練習や、④にあるようにくぼみのある跳び箱での前転練習を行った。その結果、⑤から分かるようにまっすぐに前転ができるようになり、マットを被せた縦3段の跳び箱で台上前転ができるようになった。

単元終了後の聞き取りでは⑥にあるように、セーフティマットがあることで恐怖心が和らぎ、安心して練習に取り組めたことが分かる。また、⑦から1時間で達成できなかった課題を振り返り、次の時間にも継続して練習に取り組んだことで課題解決につながったことが伺える。さらに⑧から、発表会の設定が練習時間の調整につながり、課題解決に向けて意欲的に取り組めた様子も伺える。

以上のことからB児は自身の課題や学習到達度に合わせて、練習の場や練習時間を選択し、課題解決に近づいていたと考えられる。

一方で②にあるように、第8時B児はマットを被せた縦2段の跳び箱に何度も挑戦するが、台上から斜めに落ちてしまう状況が見られた。その要因として第8時には、B児の台上で最後までまっすぐ前転することができないという課題を解決するための場、例えばくぼみのある跳び箱の場などが用意されていなかったことが考えられる。

C児

開脚跳びに取り組んだC児の様子を表13に示す。(第2・4時)なお、第3時はかかえこみ跳びに取り組んでいたためその様子については示していない。また、単元終了後の聞き取りを資料19に示す。

資料 19 C児の単元終了後の聞き取り

(質問)	技ができるようになるために効果があったと思う練習場所を教えてください。
(回答)	開脚跳びができるようになるために、場を変えながら練習したのがよかったです。理由は、それぞれの場で改善できることが違ったので、ペア児童に4つの視点のできていないところを教えてもらって、できていないところを改善するために場を変えて練習できたからです。…⑦
(質問)	切り返し系と回転系でそれぞれ4時間ずつ技に取り組める時間があつたことはどうでしたか。
(回答)	よかったです。時間をまたいで、続けて練習できたことで、技のポイントを忘れずに練習に取り組むことができたからです。…⑧

第2時①にあるように、C児は踏切の勢いが不足していたため、跳び箱を跳び越えることができなかった。次に②から柔らかい跳び箱で練習を行い、勢いよく踏み切ることができるようになったことが分かる。しかし、③にあるように第2時終了時点では、開脚跳びはできなかった。

第4時では、④からロールマットを使用して手を突き放す練習を行い、⑤からその後3段の

跳び箱での開脚跳びに成功したことが分かる。そして、場所を変えながら粘り強く練習を続け、最終的には4段の跳び箱での開脚跳びができるようになったことが⑥から分かる。

単元終了後の聞き取り⑦から、課題に合った場を選びながら練習に取り組んだことが、C児の課題解決に効果的だったことが分かる。

最後に⑧から、1時間で解決できなかった課題も、4時間という時間設定で行うことによって、継続して技のポイントを意識した練習に取り組むことができたことが分かる。結果としてC児は開脚跳びができるようになっており、課題解決につながったと考えられる。

以上のことから、C児は自身の課題や学習到達度に合わせて、練習の場や練習時間を選択し、課題解決に近づいていたと考えられる。

c 手立て①の妥当性と課題

児童の課題、学習到達度に応じた練習の場、練習時間を設定することは、児童が自ら課題を発見し、課題に合った練習の場や練習時間を選びながら課題を解決していくことに有効であったため、手立て①の妥当性が示されたと考える。

一方、B児のように課題に合った練習の場が用意されていなかった場合は、教師が授業中でも柔軟に練習の場の設定を変更することが必要である。

(イ) 手立て②

a 分析資料・分析方法

- ・ 録画記録による行動分析
- ・ 振り返りの分析
- ・ 単元終了後の聞き取り

(b) 結果と考察

A児

A児について、台上前転に取り組んだ第6・7時の学びの様子と振り返りを表14に示す。単元終了後の聞き取りを資料20に示す。

表14 A児の学びの様子と振り返り

	学びの様子	振り返り
第6時	(1) 台上前転の練習の説明を受け、試す。 (2) 5段の跳び箱で台上前転の練習の様子を動画撮影し、課題を見つける。	台上前転の課題は、 <u>空中姿勢と着地です。</u> …①
第7時	(1) 5段の跳び箱で台上前転を練習。 (2) <u>ステージから前転して着地をする練習。</u> …② (3) 5段の跳び箱で台上前転を練習。	<u>今日は着地ができるようになるために…</u> ③、 <u>ステージから降りる練習をしました。</u> そして、 <u>着地ができるようになりました。</u> まだ <u>空中姿勢が課題なので、そこをめあてにして取り組みたい。</u> …④

資料20 A児単元終了後の聞き取り

(質問)	振り返りをしてよかったと思うことを教えてください。
(回答)	前回の振り返りや、班の人の振り返りを参考にして、自分の振り返りを書くことができました。また、 <u>できなかったことを振り返りにまとめて、それを意識して次の学習に取り組むことができました。</u> …⑤

①にあるように、A児は第6時の振り返りで、台上前転の課題を「空中姿勢と着地」とであると記述している。そこで第7時に、着地の練習に取り組んだことが②から分かる。その結果、第7時の振り返りでは、着地は解決できたことが③から分かる。

単元終了後の聞き取りでは、⑤からA児は振り返りを通じて自身の課題を整理し、それを次の学習に活かすことができたことが分かる。そ

これからA児は、本時を振り返ることで自身の課題を把握し、課題を解決するための練習の場を想定しながら学習に取り組んでいる様子が伺える。

以上のことから、学習到達度の振り返りを設定したことで、A児は練習の場や練習時間を調整し、課題解決に近づいていたと考えられる。

一方、④から分かるようにA児は第7時の振り返りに、空中姿勢はまだ改善の余地があると記述している。しかし、児童の提出動画を確認したところ、台上前転の空中姿勢における課題は解決していると教師は判断した。そして、次時からは発展技の伸膝台上前転に取り組むことをA児に提案した。

B児

B児について、台上前転に取り組んだ第6時～第9時のB児の学びの様子と振り返りを表15に示す。単元終了後の聞き取りを資料21に示す。

表15 B児の学びの様子と振り返り

	学びの様子	振り返り
第6時	手を怪我しているため見学。他の児童の練習の観察や助言をする。	他の人を見てほとんどの人が頭より背中が高く上がっていてすごいなと思いました。… ①私も、手が治ったら、その人みたいに高く跳びたいです。…②
第7時	(1) マットを重ねた場で前転の練習。 (2) ステージの下からステージに向かって前転をする練習。 (3) ロイター板で腰をあげる練習。…③	背中は、高く上げられたけど…④、(台上で)前転が怖くてできないのでそれが課題です。前転はできるけど怖くて前に進めない…⑤から、次は怖がらずに行ってみます。後、ステージから降りる所が怖いです。(理由)首が痛くなりそうだからです。…⑥
第8時	(1) マットを重ねた場で前転する練習…⑦。	跳び箱は、斜めに前転することはできるけど、どうしても途中で

	(2) ステージからジャンプして着地する練習。…⑧ (3) ステージから前転して降りる練習。 (4) ステージの下からステージに向かって前転する練習。 (5) 連結跳び箱で前転する練習。 (6) マットを被せた縦2段で前転する練習。	落ちてしまう。でも何回もやってみて、友達に動画を撮ってもらくと、頭のてっぺんが前転するときについていることが分かった。だから次は前転の練習をします。…⑨
第9時	(1) くぼみのある跳び箱で前転の練習。 (2) マットを重ねた場で前転の練習。 (3) マットを被せた縦3段で台上前転の練習。 (4) 縦3段で台上前転の練習。 (5) くぼみのある跳び箱で台上前転の発表。…⑩	台上前転が最初は斜めだったけど、今はまっすぐいけるようになりました。最初の動画と今の動画を見比べてみると、とても真っすぐいっていたなと思いました。…⑪

資料21 B児単元終了後の聞き取り

(質問) 振り返りをしてよかったと思うことを教えてください。
(回答) 振り返りに、言葉で表すことで学習を整理することができた。…⑫また班の他の児童の振り返りを見ることによって同じ悩みをもっている子がいることに気付いて、安心したり、その子がどういう工夫をして練習しているのかを参考にしたりした。…⑬

まず①にあるようにB児は、第6時で友達の動きの観察を通して、台上前転は「腰を高く上げて」前転することがポイントだと理解している。そして他の児童のように、背中(腰)を高く上げたいと振り返りに記述していることが②から分かる。次に第7時では、課題を解決するために、ロイター板で背中(腰)を高く上げる練習に取り組む姿が見られたことが③から分かる。④～⑥にあるように練習後の振り返りには、腰を高く上げる課題は解決できたが、前転ができないことや、前転や着地に対しての恐

怖心を抱えていることが記述されている。そして第8時からは、⑦や⑧にあるように前転や着地に対しての恐怖心を克服するために、高さがある場所への前転や着地の練習に取り組んでいる。練習後の振り返りでは、前転に対する成果を感じつつも、前転の途中で台上から落ちることや、前転をする際に頭頂部がついているという新たな課題に気付いていることが⑨から分かる。さらに第9時では、⑩にあるように台上で真っすぐ前転をするための練習を繰り返し、マットを被せた跳び箱の上で真っすぐ前転ができるようになったことが⑪から分かる。これらのことから、B児は振り返りを行うことで自己の学習の進捗や課題を把握し、次時に向けての目標を設定しながら練習を行い、課題解決に取り組んでいることが推察される。

単元終了後の聞き取りでは、⑫からB児は振り返りを言語化することで、自身の学習を整理していることが分かる。また、⑬から他の児童の振り返りを見ることで、悩みに共感したり、練習方法を参考にしたりするなど、振り返りを学びにつなげている様子が伺える。

以上のことから、学習到達度の振り返りを設定したことで、B児は練習の場や練習時間を調整し、課題解決に近づいていたと考えられる。

C児

C児について、台上前転に取り組んだ第6～第9時のC児の学びの様子と振り返りを表16に示す。単元終了後の聞き取りを資料22に示す。

表16 C児の学びの様子と振り返り

	学びの様子	振り返り
第6時	(1) 台上前転の練習の説明を受け、試す。 (2) 1段と3段が連結した跳び箱で台上前転を行い、課題を見つける。	前転した後、 <u>着地の時に足がつかずに背中が地面につくので両足で着地することを意識したい。…①</u>
	(1) ステージから <u>着地</u>	今日は着地の練習を

第7時	<p>する練習。…②</p> <p>(2) 連結の跳び箱での練習。</p> <p>(3) マットを被せた跳び箱での台上前転の練習。</p> <p>(4) マットを重ねた場で台上前転の練習。</p>	<p>しました。<u>両足で着地ができるようになった…③</u>けど、<u>他のポイントの頭の後ろをつけることや、つける位置に気をつけたらもっといいことが分かりました。…④</u></p>
第8時	<p>(1) マットを重ねた場で前転の練習。</p> <p>(2) ステージから前転で降りる練習。</p> <p>(3) 連結した跳び箱で台上前転の練習。</p> <p>(4) マットを重ねた場で台上前転の練習。</p>	<p>今日はペア児童が、足がクロスになってしまうのでアドバイスを、改善することができていました。ペア児童ができるようになってよかったです。</p>
第9時	<p>(1) ステージの下からステージに向かって前転の練習。</p> <p>(2) ステージから前転で降りる練習。</p> <p>(3) 5段の跳び箱で台上前転。</p> <p>(4) 6段の跳び箱で台上前転。</p> <p>(5) 6段の跳び箱で台上前転を発表。</p>	<p><u>台上前転6段ができるようになりました。みんなにアドバイスをしてもらって、自分の課題を解決するために頑張った甲斐があった。…⑤</u> <u>6年生でもあきらめないで挑戦し続けたい。…⑥</u></p>

資料22 C児単元終了後の聞き取り

(質問)	振り返りをしてよかったと思うことを教えてください。
(回答)	<p>振り返りを書くことで、自分のできたことやできなかったことを整理することができました。どんなことをアドバイスしてもらったかも整理することができました。…⑦ <u>整理したことで、技ができるようになることにつながった…⑧</u>と思います。またその1時間でできたことを振り返りにまとめて、次の時間にまだできていないことをやってみて、できなかつたら戻って練習することにつながりました…⑨。</p>

まずC児は、①にあるように第6時の振り返りに着地が課題であることを記述している。そこで第7時に、②にあるように課題を解決するために着地の練習を行い、振り返りでは両足で着地ができるようになったことが③から分かる。一方、④にあるように新たな課題として、後頭部を台上につけることやその位置に気を

付けることを記述している。次に第8時では、第7時の振り返りを反映し、台上前転を練習する姿が見られた。そして第9時では、練習を繰り返すことで5段、6段の跳び箱で台上前転を成功させている。振り返りにおいては、⑤からできるようになった達成感だけでなく、友達からのアドバイスに感謝している様子も伺える。さらに来年度に向けて、前向きに取り組んでいこうという決意が表れていることが⑥からも分かる。

単元終了後の聞き取りでは、⑦から振り返りを行うことで自己の学習を整理することができたことや、⑧から技ができるようになったことにつながったと述べていることが分かる。また、⑨から毎時間振り返りを行うことで、自己の課題を確認し、課題に合わせて練習の場を選択し、練習に取り組めたことも分かる。

以上のことから、学習到達度の振り返りを設定したことで、C児は練習の場や練習時間を調整し、課題解決に近づいていたと考えられる。

c 手立て②の妥当性と課題

次時の練習の場、練習時間が選択できるように学習到達度の振り返りを設定することは、児童が練習の場や練習時間を調整し、課題解決に近づいていくことに有効であったため、手立て②の妥当性が示されたと考える。

一方、A児のように学習到達度が正確に把握できていない児童には、次時に取り組む技や練習の場などを個別に助言する必要があると考える。

(ウ) 手立て③

a 分析資料・分析方法

- ・ 発話記録による分析
- ・ 録画記録による行動分析
- ・ 振り返りの分析
- ・ 単元終了後の聞き取り

b 結果と考察

A児

A児について、第3時にかかえ込み跳びの課題設定を行った際の発話記録を資料23に示す。第3時の練習の様子を表17に示す。単元終了後の聞き取りを資料24に示す。

資料23 A児の発話記録

児童の様子	:(かかえこみ跳びの教師の見本動画と自分の動画を見比べている。)
(A児)	:(課題は) 着地だね。
(D児)	: うん。
児童の様子	:(かかえこみ跳びの教師の見本動画と自分の動画を見比べている。)
(D児)	: 着地だ。
(A児)	: やっぱり着地だね。着地が少しふらついてしまったので、そこを直せばいいね。…①

表17 A児の練習の様子

	練習の場	回数	成功○ 失敗×	練習の様子
第3時	横5段	1	○	ペア児童との課題設定 着地で動く
	フロアからステージにかかえこみ跳びをする場	1		
	横6段	3	○○○	・着地の際に膝を曲げている。
	横5段	11	すべて○	・5回着地の際にバランスをとるために手をつけている
	横6段	2	○○	・1回着地の際にバランスをとるために手をつけている。
	横5段	1	○	・着地で止まる…②

資料24 A児の単元終了後の聞き取り

(質問)	タブレットを用いて課題発見を行ったことについて感想を教えてください。
(回答)	見本動画と自分の動画を空中姿勢に注目して見比べることができました。見比べやすかったし、自分のタイミングで見ることができたり、友達と動画を見ながらここが課題じゃないかと話し合ったりすることができました。…③

①からA児はD児の発言を受けて、自身の課題は「着地」ということに気付き、解決していることと決意している。その後は一貫して、着地を改善するために、練習に取り組んでいる。そして、②にあるようにその時間の最後には、課題設定を行った5段の跳び箱で再度演技し、着地を成功させている。③から友達と話し合ったことが課題発見のポイントであったと述べており、課題設定を他者と行ったことで、助言し合うことができたことが推測される。

以上のことから、達成すべき課題を児童自身が設定するようにしたことで、課題設定に向けた他者との対話が生まれ、A児は課題解決に向けた視点を明確にすることができたと考えられる。

B児

B児について、台上前転に取り組んだ第8時の振り返りを資料 25 に示す。また第9時の練習の様子を表 18、単元終了後の聞き取りを資料 26 に示す。

資料 25 B児の第8時の振り返り

跳び箱は、斜めに前転することはできるけど、どうしても途中で落ちてしまう。でも何回もやってみて、友達に動画を撮ってもらおうと、頭のてっぺんが前転するときについていることが分かりました。だから次は前転の練習をします。…①

表 18 B児の練習の様子

	練習の場	回数	成功○ 失敗×	練習の様子
第9時	くぼみのある跳び箱	1	×	・腰が上がらない
	マットを重ねた場	3	○	②
	くぼみのある跳び箱	3	×○ ×	
	マットを被せた縦3段の跳び箱	4	○○ ○×	
	くぼみのある跳び箱	1	○	
	マットを重ねた場	2	○○	
	マットを被せた縦3段の跳び箱	1	○	③

資料 26 B児の単元終了後の聞き取り

質問) タブレットを用いて課題設定を行ったことについて感想を教えてください。

(回答) 友達とスローで動画を見て話すことで、私はななめに前転しているとか手の着く位置が遠くにいつてるなどが分かりやすくてよかったです。…④

①から第8時にB児は、友達から動画を撮影してもらうことにより、前転をする際に頭頂部がついてしまうことが自己の課題だと気付いていることが分かる。そして②～④から、第9時にタブレット端末を用いて自身の姿を技のポイントごとに細かく見取ったことや、それを友達と相談しながら確認したことが、課題設定につながっていることが分かる。

以上のことから、達成すべき課題を児童自身が設定するようにしたことで、課題設定に向けた他者との対話が生まれ、B児は課題解決に向けた視点を明確にすることができたと考えられる。

C児

C児について、第8時に台上前転の課題設定を行った際の発話記録を資料 27 に示す。また第9時の練習の様子を表 19 に示す。単元終了後の聞き取りを資料 28 に示す。

資料 27 C児の課題設定を行った際の発話記録

C児の台上前転の動画と見本動画をF児と見比べている場面

(C児) : 手だね。
 (F児) : やっぱり手だね。
 (C児) : 手が最後まで(跳び箱に)ついていない。
 (F児) : (動画を見ながら) ほら、手をすぐ(跳び箱から)はなしているから、ななめに落ちるんじゃない。…①
 もう一度やってみよう。

表 19 C児の練習の様子

	練習の場	回数	成功○ 失敗×	練習の様子
第 9 時	マットを被せた 3段	3	○○○	手を台の上に長く着けて前転する。…②
	4段	3	○○○	
	ステージから前 転で降りる場	2	○○	
	5段	1	○	
	6段	2	○○	③

資料 28 C児の単元終了後の聞き取り

(質問) タブレットを用いて課題発見を行ったことについて感想を教えてください。
 (回答) 友達がタブレットの操作が得意だったので、課題やポイントを分かりやすくタブレットを使ってアドバイスをしてくれました。自分だけだったらわからなかったところを友達がカバーしてくれた感じでした…④。

①から第8時にB児は、E児との話し合いを通して、跳び箱から斜めに落ちてしまわないようにするために、手をすぐに跳び箱から放さないという課題を設定している。②にあるように、手を最後まで着けて前転した結果、マットを被せた跳び箱での前転を成功させる姿が見られた。③にあるようにその後、6段の跳び箱でも台上前転を成功させることができた。また、④から友達との課題設定がC児の新たな視点の獲得につながっていたことが分かる。

以上のことから、達成すべき課題を児童自身が設定するようにしたことで、課題設定に向けた他者との対話が生まれ、C児は課題解決に向けて新たな視点を得ることができたと考えられる。

c 手立て③の妥当性と課題

技能の習得状況において達成すべき課題を児童が設定するようにしたことで、課題設定に向けて他者と助言し合い、新たな視点を得たり、視点を明確にしたりしながら課題解決に向かう児童の姿が見られたため、手立て③の妥当性

が示されたと考える。

一方、今回の抽出児童以外でも他者と助言し合う場面は見られたが、感想の伝え合いに終わり、新たな視点を得たり、考えを深めたりすることにつながっていない姿も見られた。そのような児童には、より効果的な他者への助言ができるようにするために、課題を明確にするための知識などを教師が全体で共有したり、個別に伝えたりする必要があったと考える。